



2011オープンキャンパスに参加しませんか

今年も吉備国際大学、吉備国際大学短期大学部、順正高等看護専門学校のオープンキャンパスを、下表の日程で予定しています。受験生の皆さんだけでなく、高校1・2年生の皆さん、またご家族での参加もお待ちしております。参加申込は不要です。

また、今年オープンキャンパスの他、キャンパス見学会も開催します。この見学会は予約制で、施設見学やAO面談などを実施します。さらに、11月5日(土)は、学園祭との同時開催になりますので、普段とは違う学園の様子をご覧いただけるとと思います。

教職員一同、皆さんのご参加を心からお待ちしております。

◎オープンキャンパス

| 開催日時(時間は予定) | 会場 | 内容等 |
|--------------------------|----------------------|---|
| 5月29日(日) 13:15~17:00 | 岡山駅前キャンパス | 出張オープンキャンパス(各学科ブース形式) |
| 7月24日(日) 10:30~16:00 | 高梁キャンパス 岡山駅前キャンパス | 学部学科紹介、施設見学、模擬講義、学食無料体験、入試相談、在学生コーナー、AO面談 など ※無料送迎バスあり |
| 8月27日(土) 10:30~16:00 | 高梁キャンパス 岡山駅前キャンパス | |
| 10月30日(日) 13:15~17:00 | 岡山駅前キャンパス | 出張オープンキャンパス(各学科ブース形式) |

※短期大学部の春のオープンキャンパスが、3月26日(土)に岡山キャンパスで開催されます。

◎キャンパス見学会 6月5日(日)、6月26日(日)、9月17日(土)、11月5日(土)、11月19日(土)

■問い合わせ 順正学園入試広報室(☎@7178)

地名を歩く

七十五 成羽 古町



今に残る土塁の一部

山本方面から「古町」、下原方面を望む

今回取り上げる「古町」は正式な行政地名ではなく、近世に発展した成羽川右岸に残る陣屋町に対して、対岸に残る中世以降の古い地域を「古町」と呼んでいます。

「古町」は、現在成羽町成羽にあり、島木川が成羽川に合流する氾濫原の低地とその北の山麓に展開する場所です。北は羽山村、南は成羽川を隔てて旧下原村、東には旧福地村(現落合町福地)が、西には旧小泉村が位置しています。

古くには下道郡成羽郷に属し(「和名抄」承平年間成立)ていて「古町」一帯地域が中心だったといわれています。その後、中世には、成羽(葉)荘という荘園でした。永徳元年(一三八一)地頭職だった三村信濃守跡が足利義満によって山城(京都)の天竜寺に寄進されたもので(「日本荘園史」)、このとき国人領主三村氏は善養寺に立てこもって守護の渋川満頼と対立し、その後にも鶴首城にいた三村一族の抵抗が繰り返され、幕府と荘園をめぐって、しばしば対立しています。その後長祿二年(一四五八)には、荘園が天竜寺へ返付されています。寛政六年(一七二四)備中守護細川勝久は「成葉庄」代官に被官の福地彦次郎を推挙しています(「前揚書」)。その後水陸交通の要だったこともあって、この地は毛利、宇喜多、織田などの勢力の拮抗点だったのです。「成羽町史」によると「古町」一帯は、中世成羽荘の中心地域だったが、近世になると石高九〇六石余りで、その内八九六石余りが山崎家治領で、残り一〇石は源(玄)樹寺領だったのです。「正保郷帳」(一

六四五~四六)では、成羽村として同じ石高で幕府領となっていました。その後万治元年(一六五八)には、旗本山崎領となって幕末を迎えています。

「古町」は、三村家親が天文年間(一五三二~五五)に成羽町成羽(古町)の平地に居館(別名お茶屋・成羽城)を築いていました。東西約一九〇メートル、南北一七〇メートルの長方形で、南東(現在の桜丁あたり)に御門があった、この付近だけが突出した部分になっていました。屋敷は中世豪族の館の特色をとどめていて、周囲に濠をめぐらせ、土塁で囲っていた居館だったことが分っています。それは東北(鬼門)の位置に土塁の一部の盛土が残り、金神様を祀っていて、これは当時の居館の外部に当たる位置で、その土塁の外にめぐらされていた周濠の跡といわれ、南北に低い水田があり、当時の堀(周濠)の遺構だろうといわれています。

元和三年(一六一七)に因幡国(鳥取県)若狭から山崎家治がこの地へ入部してから寛永一五年(一六三八)肥後富岡へ転封するまで、居館として使われていました。その後家治の次男豊治は、対岸に御殿をつくり陣屋町を建設しましたが、「古町」にあった居館を別邸お茶屋として使用しています(「成羽町史」)。「古町」は吹屋往来、成羽往来、笠岡往来の交差する場所。備中北部からの農産物や鉄、銅などの集散地として栄えました。成羽川に沿って問屋が並び、高瀬舟の船運により河岸場が繁栄しました。現総門橋のたもとには川湊があって、下ってくる高瀬舟は、ここで継船船をとり下流への就航を禁止していました。成羽河岸

には、宝暦六年(一七五六)頃には、高瀬舟二四艘船株があつて船差役が支配しました(「成羽町史」船株式拾四艘相定帳)。

佐原にある泰康山源樹寺(曹洞宗)は、慶長元年(一五九六)三村元親が父家親の菩提を弔うために開いたといわれる寺で火災で焼失したが、貞享五年(一六八八)に「古町」一帯に灌漑用水路を敷いたといわれる大商人の帯屋全久の寄進により本堂が再建されたと伝えられ、墓地には三村家親、元親の墓や帯屋全久の墓があります。また「古町」の東には、真言宗大覚寺派の放光山(常楽寺)西之坊があります。本尊は阿彌陀如来で脇侍に観音、勢至菩薩が祀られていて、寺伝によると天文二年(一五三三)三村家親が進出したときに本陣を置いたといわれ、後には旗本山崎氏の祈禱所となり、護摩堂や本堂、格天井の枳絵は、江戸初期のもので珍しい。山本にある大元八幡宮は、天正一二年(一五八四)の「成羽八幡旧記」(「成羽町史」)に、三村家親が信濃国正八幡宮を勧請して社殿を造営したといわれ、成羽荘六カ村の大氏神とされています。後の山崎氏も鎮守として崇拝したといわれ、帯屋全久が寄進した延宝(一六七三~八一)の石燈籠や江戸初期からの絵馬七点があります。「古町」は、山崎氏のつくった近世の陣屋町に対して、それ以前の三村時代から成羽川の左岸にできた古い陣屋町と高瀬舟によって、古くからの河岸の発展を見た町家を含めた地域を「古町」と呼んでいて、古い町と新しい町という時代を表す歴史地名の一つです。(文・松前俊洋さん)

まちの伝言板 歴史街道マラニック

ウルトラマラニック 4月16日(土)開会式6:20開始
吹屋マラニック 4月17日(日)開会式8:15開始



昨年のマラニックの様子

昨年引き続き、「歴史街道マラニック」が開催されます。マラニックとは、マラソンとピクニックからの造語です。交通ルールを守り、タイムを競わず思いのペースで、自然や風景を楽しみながら走る競技です。

初日に行われる「歴史街道ウルトラマラニック」は

長距離のコース設定になっていて、高梁市街地から吹屋まで走るコースなど50km・70km・75kmの3コースです。

2日目の「歴史街道吹屋マラニック」は、吹屋から宇治へ走るコースなど、7km・11km・20kmのコースがあります。

「申し込みの受付は3月16日までで、まだ受付可能なのでお問い合わせください。また全国から多くの方が参加されるので、皆さんぜひ沿道で声援を送ってください」と実行委員会事務局の赤木さん。

■問い合わせ・申し込み 同実行委員会事務局(吹屋連絡所内 ☎2222)

編集後記

この冬は、例年になく寒い冬でした。3月になり、朝晩は寒い日があるものの日は暖かい日も多く、取材などで市内を歩くとき元気な気分になってきます。

長寿園で行われた谷村詩織さんのライブでも、お年寄りのすてきな笑顔に温かい気持ちになりました。

ただ、花粉情報によると、今年は昨年の数倍の飛散量のように見えます。花粉症で悩んでいる人には、待ち遠しい春ではないかもしれません。

早いもので今年度最後の発行となりました。4月号から「広報たかはし」が大幅にリニューアルします。

地域の話題をたくさん紹介し、市民の皆さんに参加していただけるような広報紙づくりを目指していきます。来年度も「広報たかはし」をよろしくお願ひします。(K・H)